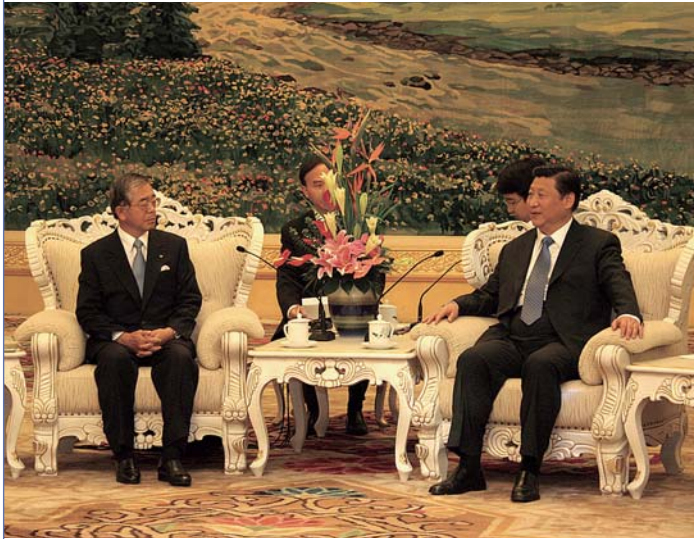


【金子知事が習近平中国国家副主席を表敬訪問】

中国とのさらなる交流発展を目指して



10月17日、北京「長崎フェア」のために北京市を訪問していた金子知事、三好県議会議長らは、習近平中国国家副主席を表敬訪問しました。習副主席は、平成12年から平成14年にかけて、本県と友好県省の関係にある中国・福建省の省長を務め、長崎県を2度訪問されたこともあり、金子知事とも旧知の間柄です。

席上、金子知事は、習副主席が責任者を務めた北京オリンピックの成功への祝意や、今年5月に発生した四川大地震のお見舞いなどを伝えました。また、今回の北京「長崎フェア」の開催にあたり、「フェアを実現できたのは、長崎と中国の長年の友好交流があったからこそ。今後も長崎県は中国との交流拡大を望んでおり、日中両国の友好関係を推進するため努力したい。」と述べました。

一方、習副主席は「両国の関係の上で地方や民間の交流は非常に重要。今後、長崎県と福建省も含めて、地域間でさらなる友好関係が築かれていくことを願っている。」と述べました。

【北京「長崎フェア」を開催】

長崎県の魅力を中国でPR



オープニングセレモニー

10月18日から25日までの8日間、中国北京市にある高級百貨店「新光天地」で「長崎フェア」を開催しました。経済がめざましく発展している中国で本県の観光や県産品をPRし、長崎ブランドの確立を図るための取り組みです。日本の地方自治体が単独で、北京でこのようなフェアを開催するのは初めてです。

初日のオープニングセレモニーには金子知事をはじめ、長崎県ブランド大使で女優の栗原小巻さん、北京市人民政府の代表者らが出席。また、長崎産クロマグロの解体ショーには多くの買い物客が詰めかけ、試食を楽しみました。

特設会場では、カステラやゼリー、お茶、しいたけ、陶磁器などの展示販売のほか、中国との交流の歴史や県内の観光地をパネルで紹介。また、地下食品売場では佐世保直送の鮮魚や、県産酒、五島手延うどん、島原手延そうめんなどを販売し、期間中約36,000人の来場者で賑わいました。



【長崎キヤノン立地協定調印式】

地域経済の活性化に
つながる企業誘致

キヤノン(株)(本社:東京都)が長崎キヤノン(株)を設立し、波佐見工業団地(仮称)に進出することが決定し、10月20日、長崎市内のホテルで立地協定調印式が行われました。

同社ではこの新工場で、コンパクトデジタルカメラとデジタル一眼レフカメラを年間約400万台生産する計画です。操業開始は来年12月を予定、地元を中心に1,000人以上を雇用する計画です。すでに来年度高校新卒者227人の採用が内定しており、今後も中途採用者などを含めた多くの雇用が見込まれます。県内の雇用状況の改善や地域経済の活性化につながるものと、大きな期待が寄せられています。



写真提供/長崎新聞社

【「チャレンジ!おおいた国体」開催】

本県選手団が
様々な競技で大活躍

9月27日から10月7日までの11日間、第63回国民体育大会「チャレンジ!おおいた国体」が開催されました。本県からは33競技、総勢452名の監督・選手が出場。男女総合成績(天皇杯)では、目標の20位台には惜しくも届かなかったものの、昨年を上回る30位の成績を収めました。

団体競技では、ハンドボール少年男子、ソフトボール少年男子、体操成年女子が、個人競技では、陸上成年男子1万メートル競歩で森岡紘一郎選手が見事に優勝を遂げました。

ほかにも、21競技55種目で入賞を果たすなど、本県選手団は日頃の練習の成果を発揮し活躍しました。



【長崎みかん初売りイベント】

知事が美味しいみかんを
東京でPR

10月1日、本年産長崎みかんの一斉販売スタートに合わせ、東京都中央卸売市場・大田市場で「長崎みかん初売りイベント」を開催しました。

イベントに出席した金子知事は「長崎みかんは日本一美味しい。生産者の笑顔がこぼれるような価格での取引をお願いしたい。」とあいさつ。県内の農協や生産者の代表者とともに、仲卸や小売り・仕入れ担当者など市場関係者に試食用のみかんを配って長崎みかんをPRしました。

今年のみかんは適度な降雨と夏場の乾燥で順調に仕上がり、品質への評判も高く、当日の競り値はLサイズ10kg当たり5,000円の高値が付くなど、今後の取引に期待が寄せられています。

【「九州・山口の近代化産業遺産群」の
世界遺産暫定一覧表への登録決定】

本県から2つ目の
世界遺産候補が誕生

9月26日、文化庁は「九州・山口の近代化産業遺産群—非西洋世界における近代化の先駆け」を世界遺産暫定一覧表へ追加登録することを発表しました。この遺産群は、九州・山口6県11市に所在する日本の近代化の原動力となった製鉄・造船・石炭など22の産業遺産で構成。このうち本県からは、長崎市の旧グラバー住宅、小菅修船場跡、北溪井坑跡、端島炭坑の4件が選ばれています。

発表を受けて金子知事は「大変よろこんでいる。『長崎の教会群とキリスト教関連遺産』と合わせて、関係する県・市と一緒に、世界遺産への登録に向け、全力で取り組みたい。」とコメントしました。



端島(通称:軍艦島)



【大河ドラマ「龍馬伝」
県推進協議会設立総会】

平成22年大河ドラマ「龍馬伝」決定!
観光客誘致に大きな期待

幕末、長崎などを舞台に活躍した坂本龍馬の生涯を、岩崎弥太郎の視線で描くNHK大河ドラマ「龍馬伝」の制作が決まりました。この決定を受け、県内の官民関係者がドラマの成功と、放映をきっかけとした本県の魅力発信を目的に「大河ドラマ『龍馬伝』県推進協議会」を設立しました。

9月2日に長崎市内で開催された設立総会には約150人が出席し、会長を務める金子知事が「県と市、民間が一緒になって取り組み、ドラマを活用したい。」とあいさつ。ドラマ制作を全面的に支援する基本方針などを採択しました。「龍馬伝」の制作は来年8月から始まり平成22年に放映される予定です。



写真提供/長崎大学

【長崎大学薬学部出身の下村脩氏
ノーベル化学賞を受賞】

研究生生活の原点は長崎

10月8日、スウェーデンの王立科学アカデミーは、アメリカ在住のボストン大学名誉教授 下村脩さんに、2008年のノーベル化学賞を授与すると発表しました。

下村さんは京都府に生まれ、少年期の一時期を佐世保市で過ごし、大阪に引っ越した後、戦時中に疎開し疎開。戦後、旧制長崎医科大学附属薬学専門部(長崎大学薬学部の前身)へ進学し、昭和26年に同大学を卒業しました。今回の受賞は、オワンクラゲから紫外線を当てると緑色に光る緑色蛍光タンパク質を発見し、そのメカニズムの解明に尽力した功績によるものです。

長崎大学が研究生生活の原点と語る下村さんの受賞は、多くの県民に夢と希望を与えました。